

平成27年度における国立大学法人の業務実績に対する評価において
国立大学法人評価委員会により「注目される取組」として認定された

筑波大学の取組



筑波大学
University of Tsukuba

はじめに

筑波大学は、「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出」を実現する世界的な教育研究拠点を目指しています。平成27年度においても、その実現に向け、各分野において様々な取組を行いました。

その結果、いくつかの事例が、国立大学法人評価委員会により「注目される取組」として評価を受けました。

本学の取組の一部ではありますが、ここにご紹介いたします。

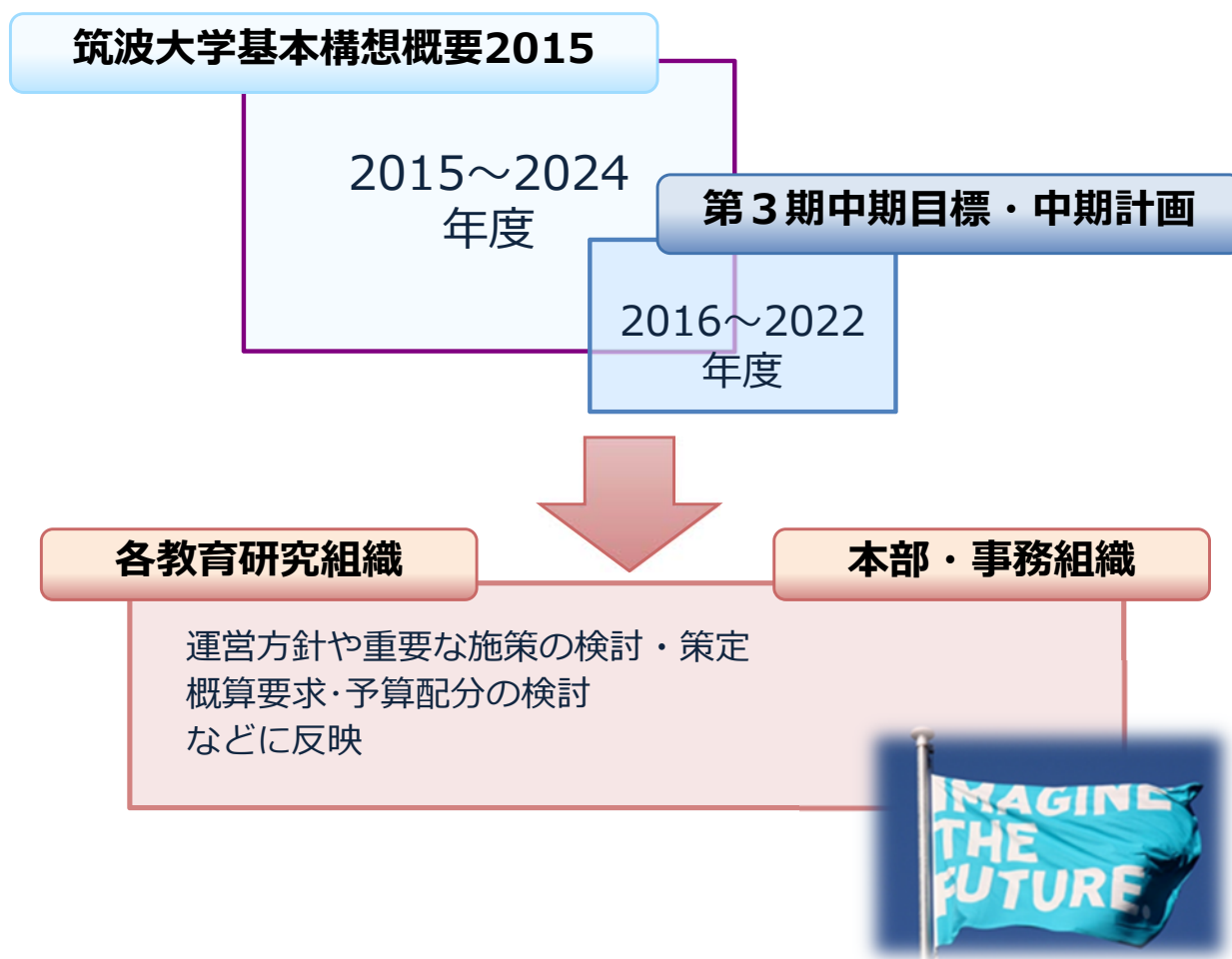


I 業務運営・財務内容等の状況

○ 将来構想の策定

「筑波大学基本構想概要2015」

- 今後10年間の構想として本学の方向性を策定し、学内に向けて発信
- 第3期中期目標・中期計画（期間：平成28年度～33年度）とともに、重要施策の策定や予算編成などにおける根幹として位置づけられる



○ 新たな募金システムの構築

多様な募金システムを展開

- クレジット機能付大学公式カード
「筑波大学校友会カード」事業
(多様な特典を用意、利用額の一部が基金への寄附に)
- ふるさと納税大学版
「筑波フューチャーシッププレミアム」制度
(大学基金への寄附特典として筑波大学に関連する品物を贈呈)

筑波大学基金
TSUKUBA
FUTURESHIP

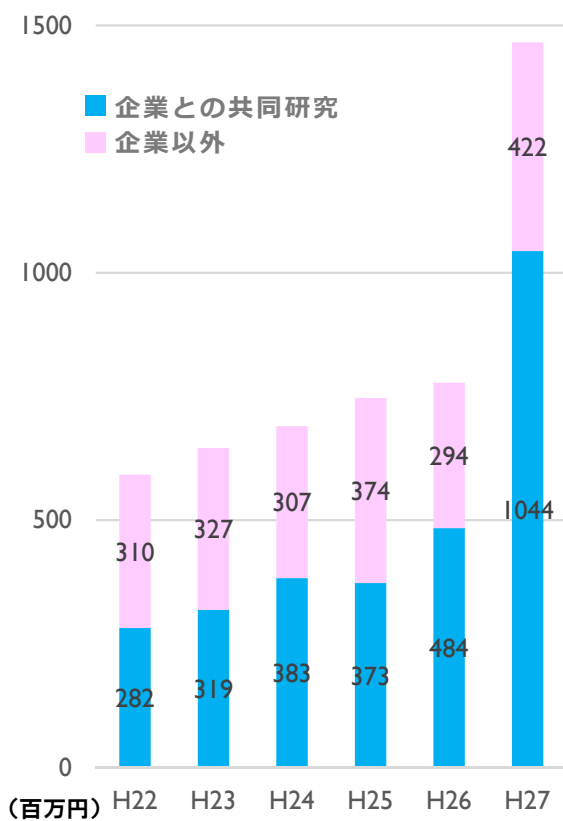


URL:<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>

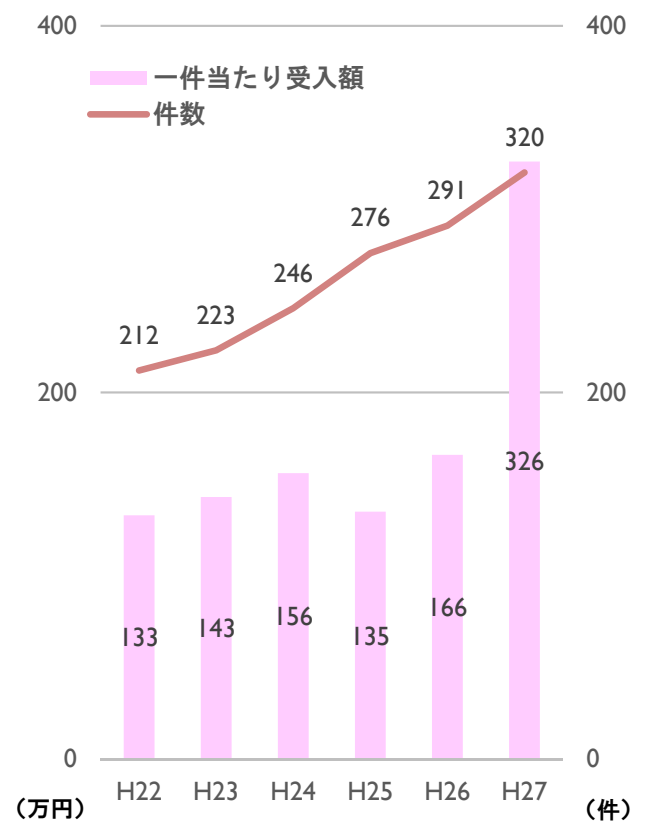
○ 先端的技術シーズの積極的な提案

- ベンチャーキャピタルや投資家、金融機関及び事業会社に対して、積極的に技術シーズを売り込むプロモーションイベントを企画・実施
- 多様な取組により一層の共同研究の大型化と件数の増加を図る

共同研究受入額



企業との共同研究件数と
1件当たりの受入額



○ 附属図書館における学修支援サービスの体系化とその効果

- 附属図書館「ラーニング・コモンズ」の運営により学修支援サービスを体系化
- 「ラーニング・コモンズ」では大学生をサポート役として採用するなどし、学生の力を活用
- 学生自らマネジメントを行うなど、学生の自主性及び自立心を育成
- 全学のライティング支援の取組を集約した「筑波大学ライティング支援ポータル」を開設



中央図書館

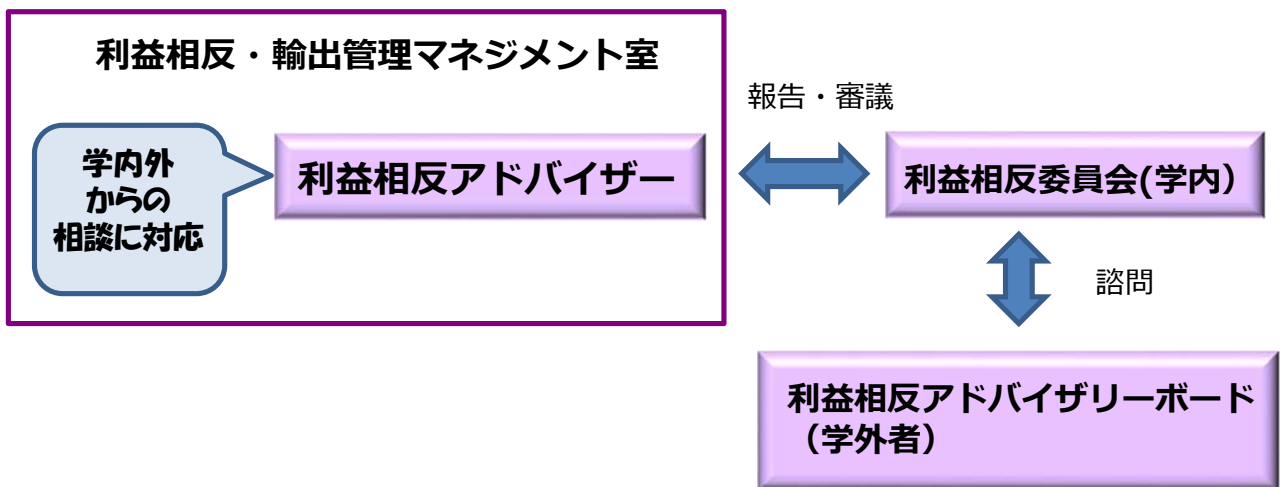


ライティング・ヘルプデスク(GC機構)の支援風景

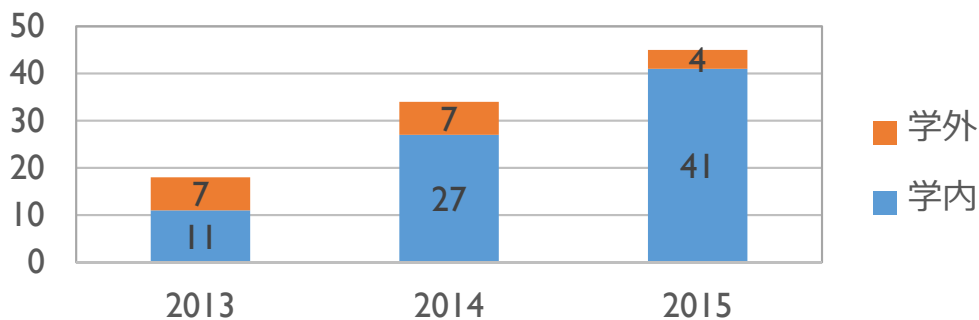
URL : <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/wsp/>

○ 利益相反に係る学内外からの相談対応

- 年々増加傾向にある利益相反に関わる学内外からの相談に、利益相反アドバイザーが対応
- 大学組織として産学官連携活動への参加機会が増加傾向にあることから、新たに「組織としての利益相反ポリシー」を制定して対応



利益相反相談件数の推移

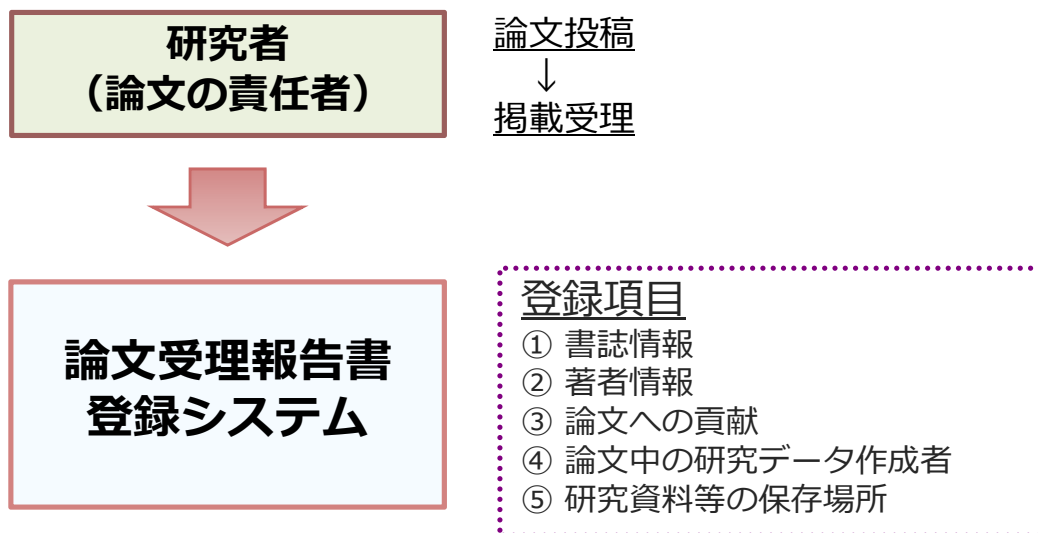


URL : <http://coi-sec.tsukuba.ac.jp/>

○ 教育研究機関としての責任を果たす新たな取組

■ 「論文受理報告書登録システム」を整備

研究者が論文を投稿し掲載受理された場合にシステムに登録させることにより、研究不正行為の抑止を図る



<研究不正行為の抑止>

- ・ 研究活動の記録を促す (実験ノートへの記録、研究資料の整理など)
- ・ 共著者の役割分担や責任を明確化
- ・ 代表研究者による研究活動及び成果の適切な確認を促進
- ・ 研究活動及び成果の適正性や正当性の確保

研究者及び大学の責務としての研究関連データを保存

URL : <http://ura.sec.tsukuba.ac.jp/archives/8254> (学内専用)

○ 情報セキュリティマネジメントの体制強化

27年度における主な取組み（一例）

- 「情報セキュリティリスク管理室長」として民間のIT関連会社から専門家を登用
- 教職員や学生を対象としたeラーニングによる情報セキュリティ教育を実践
- 部局の情報セキュリティ対策における危機管理の実務を担う「部局ISIRT」を設置
- セキュリティ監査及び各組織責任者へのセキュリティアンケート調査を実施

情報セキュリティ
インシデント対応チーム

インシデント通報窓口

(学外者窓口)

E-mail : abuse@tsukuba.ac.jp

(学内者窓口)

E-mail : incident@cc.tsukuba.ac.jp

TEL : 029-853-2070

<参考> 前年度設置

「情報セキュリティインシデント対応チーム (ISIRT)」

本学の情報セキュリティ対策における危機管理の実務を担う

「情報セキュリティリスク管理室」

本学の情報セキュリティリスクマネジメントを統括

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

○ 新たな推薦入試の導入

新たな推薦要件による優秀な学生の確保

入試改革の方向性の一つとしての「グローバル化に向けた入試改革」

全学版アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

筑波大学は、自立して世界的に活躍できる人材を育成するため、本学の教育を受けるのに必要な基礎学力を有し、探究心旺盛で積極性・主体性に富む多様な人材を受け入れます。

▶ IB（国際バカロレア）特別入試を含むグローバル入試の実施


▶ 4技能外部英語検定試験の導入検討

※ 4技能 = Listening 聞く, Speaking 話す, Reading 読む, Writing 書く

▶ 学群推薦入試に、スーパーグローバルハイスクール卒業生や他の高等学校において、国際的な探求活動等に取り組み、国際的な素養を身に付けた者を対象とした新たな推薦要件を導入

「高等学校等において、国際的な課題をテーマとする探求的な学習や、国際交流に関する活動に取り組み、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的な素養を身に付けた者…」

平成29年度入試（平成28年度実施）からの導入を決定



国内外から多様かつ優秀な学生を受入れ
世界に挑むグローバル人材を育成



○ 卒業生の協力による起業家育成教育の実施

筑波クリエイティブ・キャンプ（TCC）

- 起業家養成講座「学群自由科目（筑波クリエイティブ・キャンプ）」を実施（参加学生延べ357名）
- 講師として、本学OBの経営者等も参加
- 起業を目指す学生の事業プランをブラッシュアップ
- 講座の最終回には、一般公開による起業プラン発表会を開催
- 優秀プランには大学からの支援を実施

～筑波の起業が未来を変える！～



○ 教育関係共同利用拠点の積極的活用

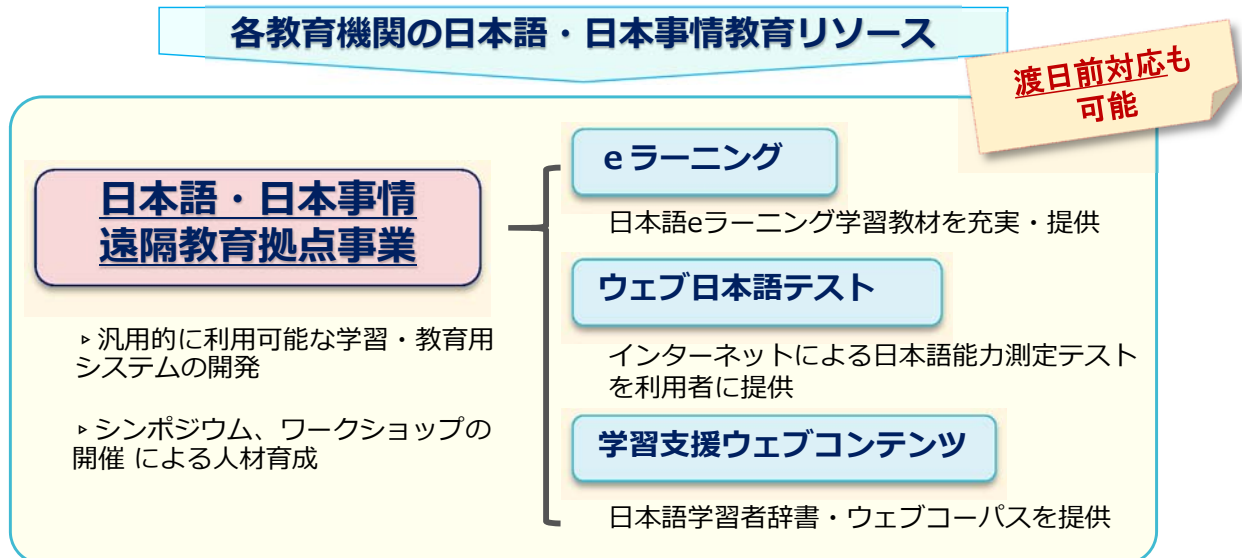
文部科学省認定 教育関係共同利用拠点

「日本語・日本事情遠隔教育拠点」

グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）

- 当拠点として、国内外大学等の日本語教育機関が利用できるシステムを開発
- 日本語・日本事情教育の共同利用の促進に資する取組を実施

各教育機関の日本語・日本事情教育リソース



国内外大学の日本語教育機関による共同利用

(平成27年度利用：e-learning登録者 約5,150名、ウェブテスト受験者 約16,500名)

留学生増加に対応した日本語等教育の支援を通じ
我が国の国際競争力向上への寄与

筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）

拠点事業URL：<http://www.intersc.tsukuba.ac.jp/~kyoten/>

○ 国際化推進に向けた学術交流の取組

つくばグローバルサイエンスウィーク (TGSW)

- 世界の英知を筑波研究学園都市に結集し、国を超え、研究領域を超えて議論をすることで、国際的な連携ネットワークの構築を推進
- 高い研究レベルに裏付けされた「知の創造」を行い、Tsukubaの地から世界に向けて「地球規模課題」の解決策を発信



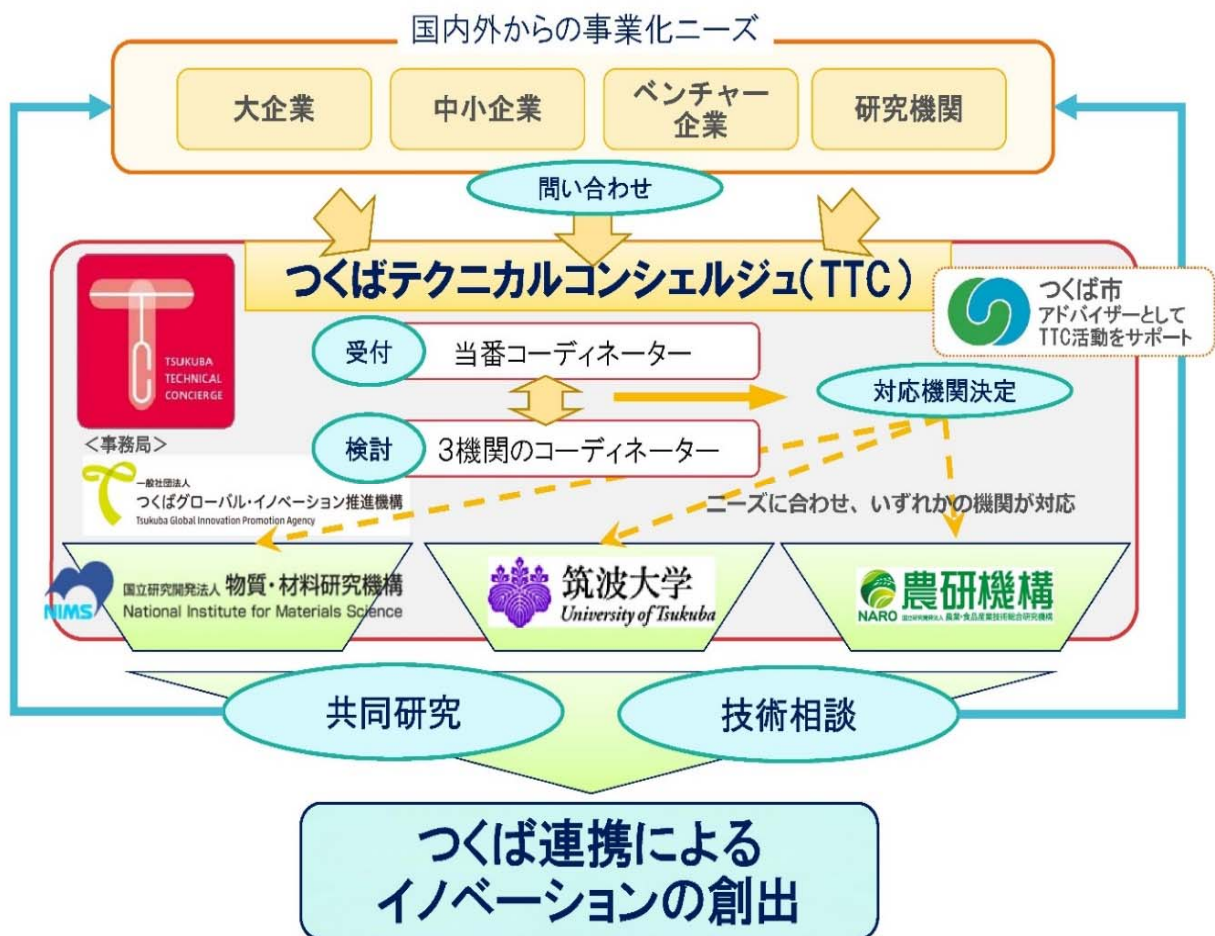
(平成27年度実績)

全34セッションにより構成され、世界25か国、90機関から200名近い発表者と、1,200名を超える来場者

○ 中小企業との産学連携の進展に向けた体制整備

つくばテクニカルコンシェルジュ（TTC）

- 近隣研究機関との連携により技術相談のワンストップ窓口として参画し、中小企業等の事業化ニーズを呼び込む新しいマッチング方式を検討・推進



共同利用・共同研究拠点関係

○ 様々な科学分野を発展させる高性能計算機の導入を決定

文部科学省認定 全国共同利用・共同研究拠点

「先端学際計算科学共同研究拠点」計算科学研究センター

- 「最先端共同HPC基盤施設（JCAHPC）」を東京大学情報基盤センターと共同で運営
- JCAHPCの成果として、「京」コンピュータの2倍に相当するピーク性能25ペタフロップスの「メニーコア型大規模スーパーコンピュータシステム」（Oakforest-PACSと命名）の導入を決定

 **JCAHPC** 最先端共同HPC基盤施設
(Joint Center for Advanced High Performance Computing)

最先端の大規模高性能計算基盤を構築・運営する
(両センターが連携・協力して運営)



**最先端の計算科学を推進し、我が国の学術
及び科学技術の振興に寄与**

共同利用・共同研究拠点関係

○ 形質転換が困難な遺伝子組換え植物研究の推進

文部科学省認定 全国共同利用・共同研究拠点

「形質転換植物デザイン研究拠点」遺伝子実験センター

- ユーカリ、ソルガム、エリアンサスなどバイオマス植物の分子育種の基盤となる遺伝子組換え技術の開発を推進
- バイオマス植物について、細胞壁の改良によりバイオマス利活用性の効率を向上させる基盤整備を推進
- 以上を推進することによりバイオマス植物の利用に世界が注目する中、効率よくバイオマス利活用性を向上させる遺伝子組換え植物の作成に成功



形質転換植物デザイン研究拠点 Plant Transgenic Design Initiative

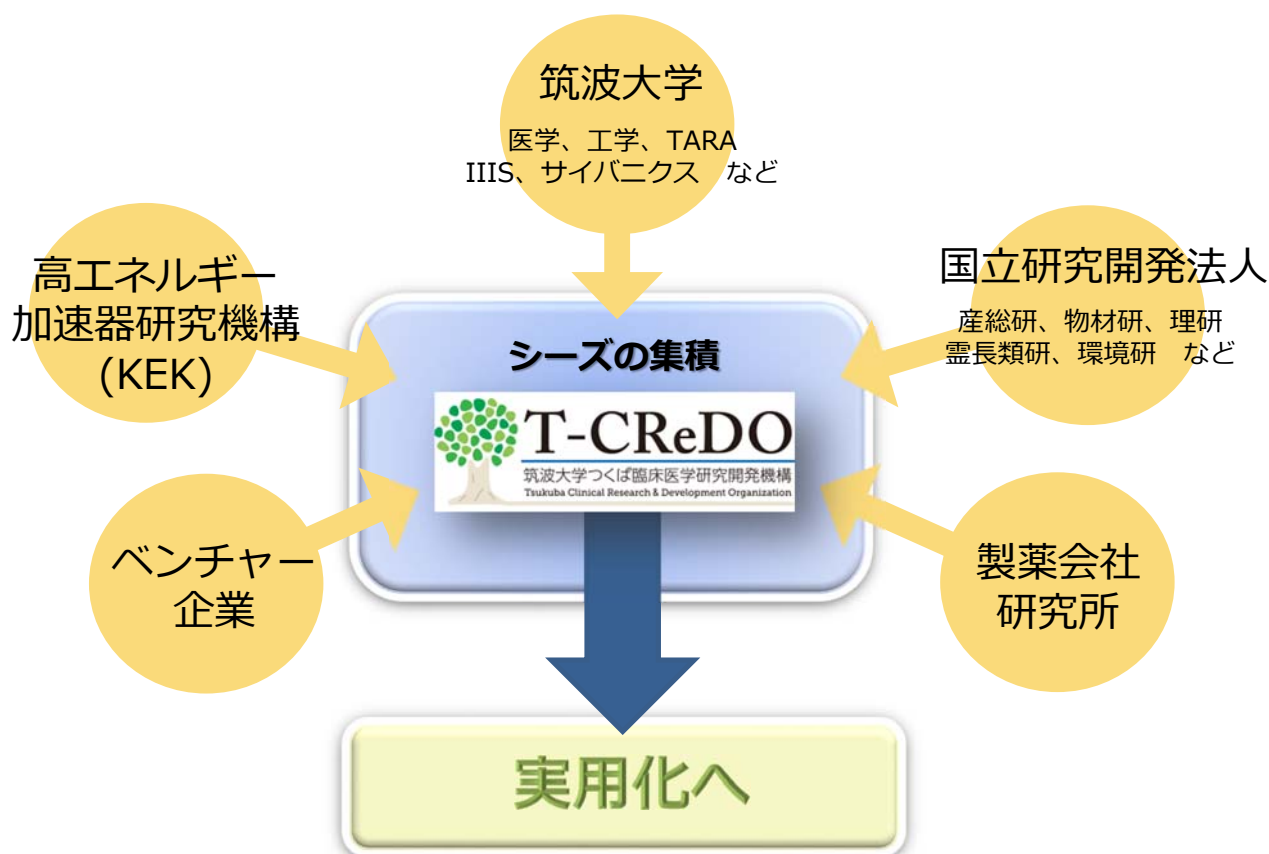
附属病院関連

○ 医療シーズの育成、臨床開発及び研究者育成に資する取組

つくば臨床医学研究開発機構（T-CReDO）の設置

本学及び筑波研究学園都市を中心とする研究機関の英知を結集

- 医療技術に関する研究成果（シーズ）の育成と臨床開発等実用化に向けた支援
- 臨床上有用な知見を得るために行う臨床試験等を支援
- 医療技術の開発を目指す若手研究者の育成や臨床研究に関わる研究者の生涯教育・研修を実施



○ 災害派遣による医療支援

茨城県災害拠点病院としての取組

2015年9月に発生した常総市における水害発生時にも対応

- 発災時より災害派遣医療チーム（DMAT）により被災者を救護
- 被災地からの重症患者等を受入れ
- 各避難所への巡回医療支援チーム派遣による医療支援
- 災害派遣精神医療チームにより住民等への精神的なケアを支援、チーム活動終了後も災害精神支援学領域や精神神経科による支援活動を継続



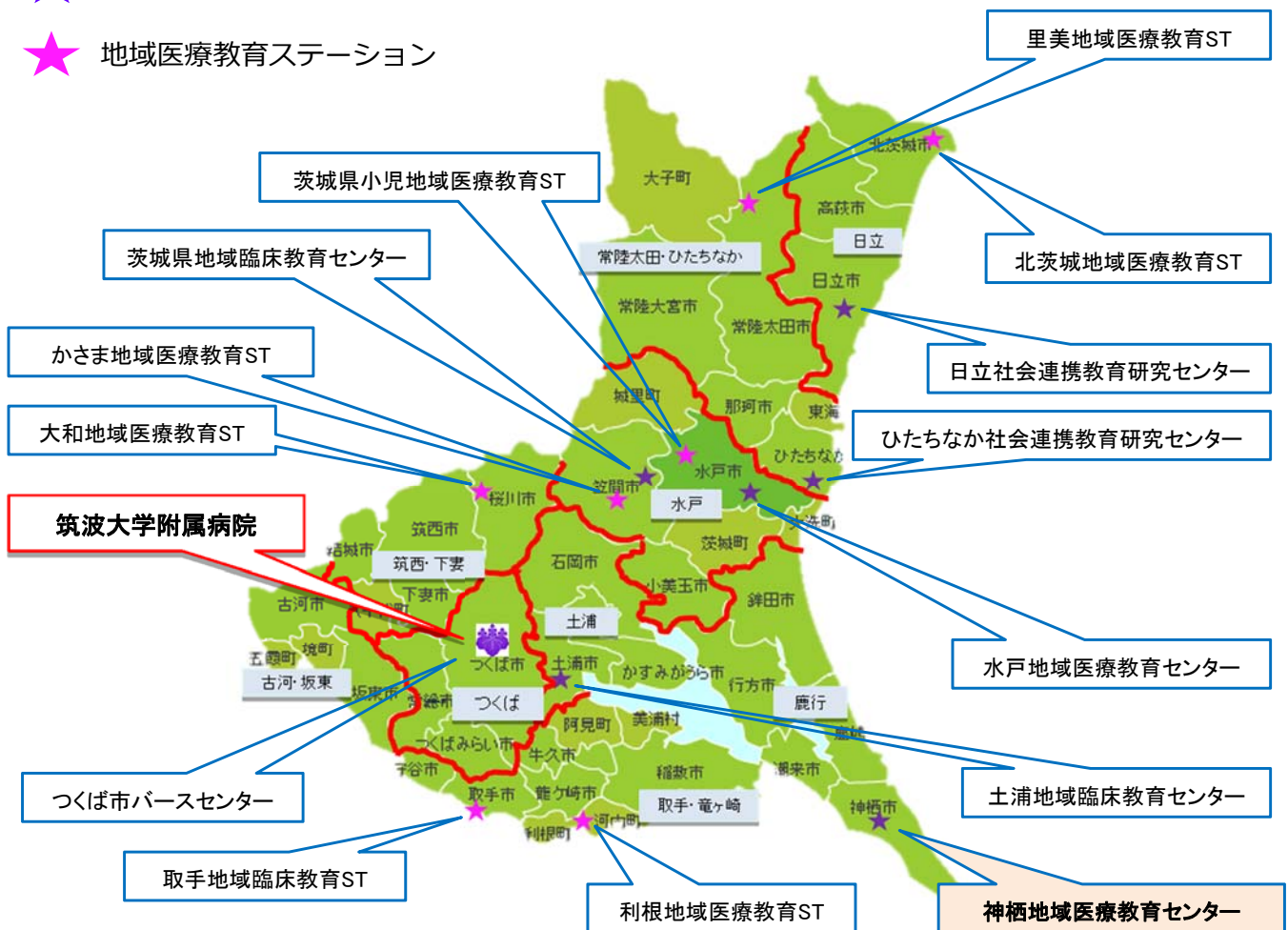
H28年度から茨城県災害・地域精神医学研究センターを開設し、災害時の精神医療体制（DPAT）の構築及び地域精神科医療の充実を推進

○ 医師不足地域における地域医療体制の整備及び質的向上

- 医師不足等を要因とした地域医療の崩壊という喫緊の課題に対応するため、新たに「神栖地域医療教育センター」を設置
- 当該センター内に常勤教員を配置し、学生の教育や実習を行うとともに、急性期・救急領域における地域医療支援を行うなど、医師不足地域における医療体制の整備及び質的向上等に寄与

★ 地域医療教育センター

★ 地域医療教育ステーション



注) STはステーションの略称



University of Tsukuba

編集・発行／問合せ先
国立大学法人筑波大学
企画評価室
TEL 029-853-2054
Mail ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp